

■ご挨拶

監事ご挨拶

— “風まかせ”の安全と信頼にならないために—

日本風力発電協会 監事 足立 慎一
損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
リスクエンジニアリング開発部 執行役員 部長



はじめに

損保ジャパン日本興亜リスクマネジメントの足立でございます。定時社員総会の承認をいただき、昨年に引き続いて、監事の大役を務めさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

風力発電との関わり

昨年5月、監事に就任して以来、弊社ならびに私個人の風力発電との関わりが、それまでに比べて格段に増えることとなりました。

弊社グループは、もともと風車保険の引受を通して、JWPAとの関係を築いておりましたが、洋上風力O&Mワーキングならびに広報委員会への参加、危機管理セミナーの講演と、保険と直接関係ない部分でも協会との関わりが広がりました。現在では、JWPA内の風車検査スキーム立ち上げにも協力をしています。

JWPA以外でも、弊社はNEDO「スマートメンテナンス技術研究開発」事業に参画して、風力発電の健全性を維持する研究もおこなっています。

また、私自身も、風力エネルギー学会や足利工大のセミナーにおいて講演の機会をいただき、また他の学会等への参加なども通じて、風力に携わる学識者や多様な業界の方々がたくさんのご知己を得ています。

そういう交流を通じて分かったこととして、風力発電の関係者が損害保険に期待することは、何も保険料の安さばかりではないということです。それは、事故で保険金支払の経験をたくさん持っている保険会社だからこそ、事故防止に有益な情報を提供してもらいたいということであり、結果として保険の安定的供給が維持されること、だったわけです。

風力発電と保険の関係

従来は、風力発電サイト毎のリスクを提示し「だから保険が必要です」と勧めるのが損害保険会社では一般的でした。現在は、洗い出した

リスクに対してグレーディングのうえ、リスク対策を促したうえで保険手配をおこなうほうが先進的です。リスク転嫁を保険だけに頼ると、事故があった後に大幅な保険料引き上げが実施されるため、結局、リスク対策コストよりも保険料増加コストのほうが高くなってしまいうからです。

そのためには、保険会社と十分なリスク検討期間を設ける必要があります。そうできたサイトと、そうでないサイトとの保険料格差は、今後事業計画に無視できないくらいの違いとなることは想像に難くありません。

JWPAの取り組み領域の拡大

どちらかといえば、風力発電の拡大中心のスタンスであったJWPAの取り組みも、この1-2年は国からの要請もあって、発電事業の健全な運営や安全確保にも注力しています。ウェブサイトの会員用ページに事故報告書が掲載されたことに気づかれた会員の方も少なくないことでしょう。さらに、普段風力発電と馴染みが少ないと思われる一般の方にも理解をいただくことを目的として、従来のウインドデイの取り組みだけでなく、小冊子（報道機関用）やチラシも作成しています。FIT価格の最終負担者である国民の皆様にも、安全性も含めた、風力発電への理解を高める努力を今後もおこなっていく必要があると思っています。

おわりに

風車は風向にあわせてその向きを変えますが、業界の安全と信頼は決して風まかせではいけません。

今後も、理事会を含む協会活動全般について、適正な運営が維持されますよう、リスクマネジメントの観点ばかりでなく、ときには国民目線で、監事業務の遂行をしてまいります。皆様のご指導ご協力をよろしくお願い致します。